

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520731

研究課題名(和文) 東アジアにおける航海信仰の伝播・融合・転生 16～19世紀の媽祖系信仰を中心に

研究課題名(英文) Propagation, Integration and Metamorphosis of The maritime prayer :A Case Study of The Japanese Mazu faith in the 16th and 19th Century

研究代表者

藤田 明良 (FUJITA, Akiyoshi)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：50309514

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、16～19世紀の日本の史料・遺物・遺跡・伝承を素材に、台湾や東南アジア等の事例と対照しながら、航海信仰の伝播・融合・転生を検証した。

その結果、中国南部から伝播した航海伸媽祖が、在日華人の守護神となる一方で、在来の諸信仰と融合しながら、船霊を神格化した船玉神、水神・女性による二十三夜講の守護神など、日本のローカル神に転生にしていることを解明した。

研究成果の概要(英文)：I studied the spread, fusion, of The Japanese Mazu faith in the 16th and 19th Century. My study's main materials are historical documents, remains, tradition. In addition, I compared the Japanese examples with the examples of other Asian areas.

In this research project, I clarified the following historic facts. Mazu became to the guardian deity of overseas Chinese's families in Japan. And she also became the guardian deity ("Funadamashin") of Japanese sailors. Further, in certain areas, she metamorphosed God who control water, or metamorphosed to the guardian deity of women's associates ("Nijusanya-ko").

研究分野：島嶼・海域史

キーワード：航海信仰 媽祖 天妃 船玉神 日本 東アジア

1. 研究開始当初の背景

近年、歴史学をはじめとした人文学研究の分野で、国家や民族の枠組みをこえた東アジアを対象とする研究が成果をあげている。それらの中で本研究と直接関わるのは、海を媒介にしたヒト・モノ・情報の交流の具体相を追及する海域(交流)史と、複眼的視角で文化の生成・伝播・接触・変容の総体的解明をめざす文化交渉学である。

研究代表者(以下、申請者)は、これまで日本史料と中国・朝鮮史料による総合的検証によって、東アジアの沿岸島嶼民や航海者相互の交流や衝突、そして陸域の国家との関係の歴史的変遷に関する研究を公表してきた。また、考古学や文化地理学・人類学等の研究者との共同研究(民間財団からの「その他の研究費」)を重ねるなかで、フィールドワークの重要性を再認識し、文献史料と現地調査の相互補完的な研究方法を追求していた。

そのなかで 2000 年度に始まった共同研究「8-17 世紀の東アジア地域における人・物・情報の交流」(科学研究補助金)において、申請者は、文献史料が少ない国家が関与しない交流ネットワークの解明の素材として、九州各地に伝わった中国南部の航海神・媽祖(天妃・天后)の古神像に着目し、日本列島に残っている古媽祖像や媽祖を祀っていた遺跡の調査を開始し、沖縄や本州も含め既知の遺物遺跡の現状確認のほか新発見も含めて 30 件以上の存在を確認した。その成果を、当該科研報告書(村井章介編「8-17 世紀の東アジアにおける人・物・情報の交流 上」、東京大学大学院人文社会系研究科、2004 年、43 頁~68 頁)に掲載するとともに、海域アジア史研究会 10 周年沖縄例会(2003 年)、華僑華人研究会(2004 年)、台湾の中央研究院人文社會科學中心海洋史專題の研究会(2005 年)等で公表し、新たな所在情報の入手にもつながった。さらに 2004~05 年度には、媽祖像に関心を持つ美術史・民俗学等の研究者と共に「海を渡る女神たちの姿を読み解く 媽祖を中心とする航海神の図象史学的研究」(民間財団からの「その他の研究費」)を行ない、図録掲載の媽祖や関連神仏像の図像を収集・検討し、文化交渉学的観点から媽祖像の図象学的特徴を整理し、製作年代観についての見通しを議論した。

2005 年度に始まる共同研究「海港をとりまく地域社会「地域」からの日中交流史」(特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」現地調査研究部門の研究班)においても、申請者は中国沿岸の港町や海防遺跡の現地踏査の中で、媽祖をはじめ航海信仰関連の文物・遺跡・伝承に関する資料を積極的に収集すると共に、日本列島の媽祖関連調査も継続した。また、対照のため韓国の西海岸など調査も行なった。その中で、日本列島では、媽祖を龍宮の乙姫などと解釈する在来の信仰と融合したり、船の心霊である船玉を人格化して登場する船玉神として再

定義されたりした事例に遭遇すると共に、中国でも、山東や遼東における在来の海神との融合や、本場の福建でも媽祖伝承に地域ごとの多様性があることを知った。これらの調査を通じた知見を、部門主催の国際シンポジウム「海をむすぶ祈り-東アジア海域交流と信仰-」(2007 年)、廈門大学歴史研究所「東亜海洋史学術座談会」(同年)中華媽祖文化交流協会主催「第三回湄洲媽祖・海峡論壇」(同年)、台湾彰化縣媽祖信仰研究國際學術研討會(2008 年)、交通史研究会大会(同年)、財団法人日韓文化交流基金第 8 回日韓・韓日歴史家会議(同年)、関西大学東アジア文化交渉学研究拠点第 23 回創生部会(2009 年)などで報告、参加者と議論を重ねてきた。また、長崎県文化・スポーツ振興部文化課が、2008~2009 年度に実施した媽祖像をはじめとする渡来神仏像の悉皆調査の一部に参加した。さらに 2010 年度に開始した共同研究「西欧・中国・日本史料による 16-17 世紀東アジア海域史の総合的研究」(科学研究補助金)では、韓国や西欧史料における媽祖関連記事の調査に着手している。

2. 研究の目的

本研究の最終目的は、16 世紀から 19 世紀の日本列島に残る媽祖系信仰の遺物・遺跡・伝承を基軸的な素材として、東アジアにおける航海信仰の伝播・融合・転生の文化交渉の様相と、その背景をなすヒト・モノ・情報の交流の具体相の解明することである。今回は研究期間の 3 年間で、日本各地の古媽祖像とその関係史料のさらなる調査と、台湾・中国(福建と山東遼東)・韓国で対照のための補充調査を実施し、収集資料の整理と検証を進めながら、国内外の関連研究集会や学術刊行物に中間報告的な成果公表をおこない、これまで共同研究の一環として進めてきた本研究の体系化する最終準備を整えたい。

3. 研究の方法

本研究は、これまで主として共同研究の一環として進めてきたが、成果の公表に至らなかった内容を体系化する準備として、データの補充と検証、中間的とりまとめを行なうものである。

本研究は、現地調査(国内 12~15 回、海外 4 回)収集した資料の分析と検証、検証結果の中間的とりまとめ(研究集会への参加報告)を主な内容とする。

現地調査は、史料・遺物・遺跡の写真撮影や聞き取りによる資料収集を主な内容とする。また、図書館や資料館など資料保管施設の架蔵資料の複写もおこなう。

本研究は研究代表者が全て遂行し、研究分担者・連携研究者は置かない。国外での研究調査を円滑に遂行するため、3 名の海外研究協力者(中国・台湾・韓国)を置く。国内研究調査はこれまでの研究調査で培ってきた人的ネットワークを活用し、研究協力者は

特に置かない。

4. 研究成果

本研究では、国内における史料・遺跡・遺物・伝承の調査によって、次の諸事項を確認し、さらに歴史学的検証をおこなった。

近世鹿児島城下における媽祖堂と唐寺の存在。

関東・東日本沿岸の天妃社から流布した守護札の存在。

18世紀以降、出版物の影響で日本各地の町人上層に媽祖信仰の情報が流布していった状況。

北前船主が媽祖伝承の影響で、持ち船の守護神として祀った中国製女神像の存在。

同じく船主と船頭・船員の契約儀礼でもある船祝（起舟祭・船玉祭）の場に祀られる船玉神像に媽祖をモデルとした女神像が使用された諸事例。

進貢船の媽祖信仰儀礼や公船の船方衆の諸家門の媽祖信仰など、近世沖縄の媽祖信仰のローカル化の諸相。

同時に日本の諸事例と対照するため、以下の事例を検証する海外調査をおこなった。

中国南部から伝播した媽祖および土地公や王爺などの信仰の、台湾におけるローカル化の過程。

中国南部から伝播した媽祖信仰の北部の、渤海湾周辺における在来航海神（海神娘娘）との融合状況。

マレーシアに移住した華人社会における信仰の歴史と、その中における媽祖の位相。

以上の調査成果を検証・考察した結果、次のような結論と見通しを得た。

日本列島に現存する古媽祖像には、16～17世紀に華人の移動・移住にともなうものと、18世紀以降の日本列島における航海信仰の展開（外来信仰のローカル化）の中で作成されたものの、二系統に分類できる。

前者は、本来の航海神から、日本社会に帰化した華人や海外に渡航する琉球の上級船乗りの家門の守護神に変容しながら、信仰が維持されていった。

後者のうち、藩権力の寺社再編によって設置された常陸の天妃社は、修験道との融合によって航海・漁業神として独自の展開を遂げた。

船乗りたちに広がった媽祖像は、近世的水上交通体系の成立に伴って出現した船玉神（船魂の神格化）の展開と、密接な関係を有する。

さらに地域によっては、媽祖（天妃）は、水神や、女性の二十三夜講の守護神に転生し、独自の展開を遂げた。

以上のような媽祖信仰展開におけるローカル化の様相は、日本と同じく16世紀以降媽祖信仰が伝播する台湾や中国北部や、19世紀以降に媽祖信仰が本格的に伝播するマ

レーシアでも同種の様相が見られ、東アジアの文化交渉に共通する事象として、追求していく必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

藤田明良、歴史学における“海域史”研究と濟州島、韓国朝鮮の文化と社会、査読有、13号、2014年、29 - 60頁

藤田明良、台湾澎湖諸島・將軍1号沈船、査読無、123号、2013年、85 - 87頁

〔学会発表〕(計7件)

藤田明良、中近世日本の媽祖信仰と宮城七ヶ浜の天妃聖母元君像、東北中世史研究会・仙台藩研究会合同例会(招待講演)、2014年01月11日

藤田明良、日本海沿岸に残る媽祖像と媽祖系船玉神像 -北前船の航海儀礼と媽祖、対外関係史研究会例会、2013年12月14日

藤田明良、近世鹿児島島の媽祖信仰-菩薩堂と永福寺を中心に、九州史学会大会日本史部会、2013年12月08日

藤田明良、東アジア海域における紛争と言説生成-1665年のオランダ船普陀山襲撃事件を素材として-、国際シンポジウム「南蛮・紅毛・唐人-東アジア海域の交易と紛争」、東京大学東洋文化研究所、2013年01月12日

藤田明良、Transmission of Information and Creation of Discourses in Maritime East Asia: A Case of the Dutch Ship's Assault on Putuoshan 普陀山 in 1665、清華大学人文学院歴史系国際ワークショップ：THE CHALLENGES OF GLOBAL HISTORY IN MARITIME STUDIES: TRADE NETWORKS AND MEDIATION IN EAST ASIA (XVIth-XIXth Centuries)、2012年11月03日

藤田明良、於江戸時代東日本天妃信仰の歴史展開、國立中正大學臺灣文學研究所(招待講演)、2012年10月20日

藤田明良、《太上説天妃救苦靈驗經》與永樂朝的海外出使 日本天理大學所藏永樂十二年版和永樂十八年版的介紹與考察、第四回國際漢学会議(招待講演)、2012年6月20日

〔図書〕(計7件)

武田佐知子・藤田明良 他、交錯する知-衣装・信仰・女性-、思文閣出版、2014年、688 頁(担当：近世琉球における媽祖信仰と船方衆-那覇若狭町村の新参林氏とその媽祖像を中心に-、232 - 265 頁)

中島楽章・藤田明良 他、南蛮・紅毛・唐人 -16・17世紀の東アジア海域、思文閣出版、2013年、418 頁(担当：近世初期東アジア海域における情報伝達と言説生成-1665年オランダ船普陀山襲撃事件を中心に-、283 - 317 頁)

江寶釵・藤田明良 他、媽祖信仰文化暨在地人文藝術-國際學術研討會論文集、財團法人北港朝天宮、2013年、304 頁(担当："於江戸時代東日本天妃信仰的歷史展開、97-120)

高津孝・藤田明良 他、くらしがつなく寧波と日本-東アジア海域に漕ぎだす 3、東京大学出版会、2013年、252 頁(担当："島"に暮らす人々-舟山群島の環境と歴史、90-103 頁)

羽田正・藤田明良 他、海から見た歴史-東アジア海域に漕ぎだす 1、東京大学出版会、2013、304 頁

桃木至朗・藤田明良 他、海域アジア史研究入門【韓国語版】、民俗苑、396 頁、2012年(担当：航海神-媽祖を中心とする東北アジアの神々、207-216 頁)

大石 一久・藤田 明良 他、中国福建博物院展 長崎文化の源流をたずねて、長崎歴史文化博物館、2012年、143 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tenri-u.ac.jp/teachers/dv457k0000001zv9.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田 明良 (FUJITA, Akiyoshi)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：50309514

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者